

中将姫の旧跡をたずねる

恋野の里コース

所要時間
約4時間20分
徒歩距離
約10.6km

紀の川みち
散策ガイド



糸の懸橋



中将倉



布教の松

◆コース案内

J R 和歌山線 隅田駅

約1.2km ▼ 約30分

恋野橋 (紀の川)

約0.5km ▼ 約14分

糸の懸橋 (去年川)

約1.7km ▼ 約40分

中将倉

約5km ▼ 約120分

布教の松

約0.4km ▼ 約20分

中将が森

約3.3km ▼ 約38分

J R 和歌山線 隅田駅

橋本市

橋本市の紀の川南岸、奈良県に隣接する恋野地区には、恋野の地名が生まれたと伝えられる中将姫伝説があります。

中将姫は、奈良時代の権力者である藤原豊成の娘に生まれましたが、五歳のときに母を病気で亡くし、父豊成は照夜という方を後添いとしました。

姫は成長するにしたがい、容姿端麗で英知に富み、何事にも優れた娘となりました。そのため、継母の照夜はしだいに姫を憎むようになり、ついには命までも狙われるようになったのです。

姫は都から逃れて、雲雀山(橋本市)に身を隠し仏に仕えました。しかし、奈良の都や亡き母を忘れられず恋しつづけたことから、この地名が生まれたと伝えられています。また、後には奈良の当麻寺に住み、蓮の茎の糸で曼荼羅(国宝)を織るなどしたとも言われ、阿弥陀如来の生まれ変わりとして信仰されるようになりました。

橋本には姫の命を救うために「姫は去年亡くなつた」と報告がなされたことに由来する去年川、この川に姫がかけたと伝えられる糸



の懸橋、姫が身を潜めた洞くつ中将倉があります。

この中将倉にも、姫にまつわる逸話があります。ある時、父豊成が藤原氏の狩場になっていたこの里へ狩りにやって来て、山路に迷ってしまったところ、この倉で一心に読誦しているやつれた女性に出会いました。二人は最初、お互いに父娘と分かりませんでした。やがて、それと気づいて姫の眼が涙でかすむやいなや「おとうさま」と、父のふところ深く顔を埋めました。父も姫はこの世の人ではないと諦めていただけに、落ちる涙を禁じ得なかつたと伝えられています。

*糸の懸橋から中将倉までは、ダンプカーが多く通行しますのでご注意ください。中将が森から隅田駅までの道のりは、少し迷いやすいのでやはり注意が必要です。

所要時間
約3時間
徒歩距離
約10km

歴史の中に浪漫がある

町石道コース

紀の川みち 散策ガイド



町石道起点180町石



慈尊院多宝堂



真田庵とぼたんの花

◆コース案内

九度山駅

約0.5km ▼ 約5分

真田庵

約1km ▼ 約10分

慈尊院

約2km ▼ 約50分

雨引山分岐

約3km ▼ 約35分

六本杉(峠)

約1.4km ▼ 約20分

古峠

約2.5km ▼ 約60分

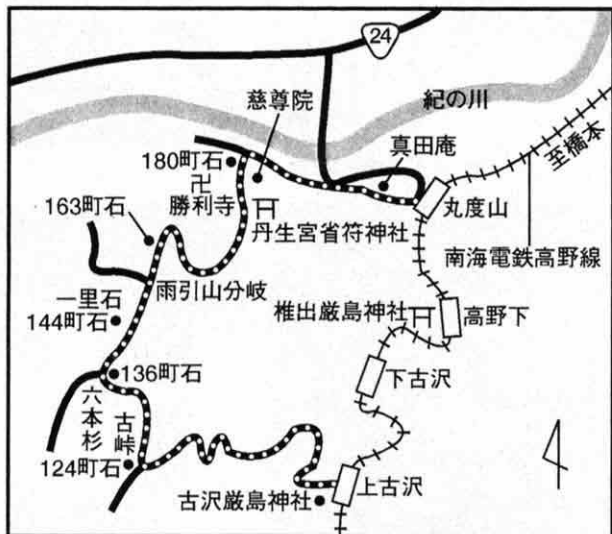
上古沢駅

九度山町

慈尊院から高野山へ続く表参道は、高野山町石道と呼ばれていますが、空海が木製の卒塔婆を建て道標とした道です。また、鎌倉時代にあって、石造り五輪塔形の町石が一町(109メートル)ごとに建てられ、天皇から庶民までが参詣登山した折の道でもあります。古人の心に触れてみては……。

まず、九度山駅から西に向かうと、戦国の武将真田昌幸・幸村父子が隠棲した屋敷跡(史跡県指定)である真田庵があります。六文銭の刻まれた門をくぐると、重厚な三層城閣風の本堂がそびえ、境内に宝物館があり、昌幸の墓や与謝蕪村の句碑も建てられています。

真田庵から約1キロメートル先にある慈尊院には、弥勒菩薩(国宝)が本尊として安置されています。空海が高野山を開創したあとに、讃岐国から空海を訪ねてきた御母公が、承和2年ここで入滅され、その後廟堂を建立したのが始まりです。以後、女人高野として女性の信仰を集め、子宝、安産を願う乳形が奉納されるようになりました。ここはまた、有吉佐和子の小説『紀の川』に登場し、一躍有名になりました。



近くには、町石の起点180町石が建ち、雨引山までは柿畑が続きます。163町石辺りが、コースの中でも景勝地。眼下に、紀の川平野の悠大さを実感できます。杉木立の中を通り、144町石と一里石を過ぎ、136町石六本杉へと進んでいきます。木漏れ日の中、四季の風情を楽しむうちに、124町石の古峠からは下り坂となり、上古沢駅に到着となります。

●問い合わせ先

※慈尊院 拝観料は無料 / 0736・54・2214

※真田庵 宝物資料館入館料は大人1000円、

小人500円 / ぼたん開花期は4月末ごろ / 0736・54・2218